

作成日	令和 年 月 日
評価日	令和 年 月 日

## 【多文化版】個別の教育支援計〔 高等学校〕

氏 名		性 別		国 籍	
フリガナ		生年月日	年 月 日		
学校での表記		母 語 使用言語			
住 所		連 絡 先			
	続 柄	氏 名	国 籍	本人との言語	日本語使用状況・備考
家 族 構 成	父				
	母				
	弟				
保護者への通知	<input type="checkbox"/> 日本語の通知文書で対応可能 <input type="checkbox"/> やさしい日本語で作成した通知が必要 <input type="checkbox"/> フリガナつきの通知文書が必要 <input type="checkbox"/> 大切な連絡等は翻訳文書が必要				
保護者面談 説明会等	<input type="checkbox"/> 日本語で可能 <input type="checkbox"/> やさしい日本語で対応するなど配慮が必要 <input type="checkbox"/> 通訳が必要				
来日時期		滞日予定			
将来の進路希望		在留資格			

年齢	学年	居住国・市町村	就学前の状況、在籍学校、不就学などの状況	担任	支援員	支援時間	備 考
4-5							
5-6							
6-7							
7-8							
8-9							
9-10							
10-11							
11-12							
12-13							
13-14							
14-15							
15-16							
16-17							
17-18							
18-19							
19-20							
20-21							

生活の様子	得意なこと 好きなこと						
	苦手なこと						
本人・保護者の学校生活や進路に関する希望	本 人						
	保 護 者						
長期目標 (期間：年)							
言語・文化的配慮	学校生活上の配慮（1）						
	日本語及び教科学習上の配慮（2）						
	母語・母文化尊重に向けた配慮（3）						
支援体制 関係機関との連携							
日本語プログラム フェーズ	フェーズ	( 年 月 )	( 年 月 )	( 年 月 )	( 年 月 )		
	支援時間	週 時間	週 時間	週 時間	週 時間		
D L A	D L A 実施レポート	実施日(実施者)	語彙力 チェック	話す	読む	書く	聴く
		年 月 日 ( )	%				
		年 月 日 ( )	%				
	全 体 評 価 (ステージ)	実施日(実施者)	話す	読む	書く	聴く	JL 評価参照枠 <全体>
		年 月 日 ( )					
年 月 日 ( )							
備 考							
作成者	担当教員：	多文化スーパーバイザー：					
		支援員：					

言語・文化的配慮の観点・項目と具体例

観点(1) 学校生活上の配慮

- (1) -1 日本語を母語としないことによる学校生活上の困難への配慮
  - (1) -1-1 行動のめやすになる表示などのユニバーサルデザイン
    - 例) ピクトグラム等 特に災害時の対応 サバイバル日本語の修得支援
  - (1) -1-2 児童生徒同士のコミュニケーションをとりやすくする配慮
    - 例) 翻訳機 電子辞書等
- (1) -2 母文化が異なるための学校生活上の困難への配慮
  - (1) -2-1 コミュニケーション上の配慮
    - 例) 身体接触 学校文化(清掃、持ち物、部活動、行事、行動規範等)
    - 例) ものの貸し借り、けんかなどをめぐる文化によるコミュニケーションの違い
  - (1) -2-2 施設・設備面での配慮
    - 例) 給食 トイレ 宗教(お祈りの場所等)

観点(2) 日本語及び教科学習上の配慮

- (2) -1 学習内容の変更・調整
  - (2) -1-1 教育課程の違いへの配慮
    - 例) 学んだことのない科目や学習内容への配慮
  - (2) -1-2 母語・母文化の違いから生じる困難度が高い科目の取り出し指導
    - 例) 国語科、社会科、家庭科等を別室で指導
- (2) -2 教材や方法上の配慮
  - (2) -2-1 教材の工夫
    - 例) 実物・模型・絵・写真・図の活用 学習の流れがわかるワークシートの活用
  - (2) -2-2 体験的な活動の導入
    - 例) 実験やフィールドワーク
  - (2) -2-3 デジタルツールの活用
    - 例) 翻訳機、タブレットの活用
  - (2) -2-4 やさしい日本語による説明
    - 例) その授業内の重要事項をやさしい日本語でゆっくり説明する

観点(3) 母語・母文化の尊重と多文化共生の取組

- (3) -1 本人の心理面を考慮した母語や母文化の尊重
  - 例) 日常的な尊重による、自尊心やアイデンティティ、保護者との関係への配慮
- (3) -2 周囲との間での互いの文化の理解と多文化共生に向けた取組
  - 例) 社会科・家庭科・芸術科、総合的な学習の時間、行事等での相互理解の機会
- (3) -3 国による教育制度等の違いに配慮した取組
  - 例) 日本の高校への進学に向けた母語での情報提供

支援体制 関係機関との連携

校内支援体制 ケース会議を設定し、定期的に個別の支援計画を見直し、協働して支援にあたる 等  
(担任、学年主任・教務主任・養護教諭等の関係職員、管理職、支援員、スーパーバイザー等)

関係機関との連携 所管教育委員会 弘前大学多文化リソースルーム 地域のNPOや国際交流協会等との連携の  
具体的なあり方

母語・母文化の尊重のために

【基本的な考え方】

日本の学校では当たり前とされていて、相手の母文化では当たり前でないことがたくさんあります。次の2つの姿勢を基本として対応していきましょう。

- ① 日本の学校教育の考え方や指導方針について、理由や背景も含めて丁寧に説明し、理解してもらう。
- ② 宗教など相手にとって大切な価値観を尊重し、受け入れる。

配慮を必要とする可能性のある言語・文化的な違いの例

トイレ

- ・ジェンダーフリー(みんなのトイレ等)

宗教上の習慣

- ・礼拝室
- ・ウドゥ(シャワーコーナー。お祈り前に身を清めなければならないため)
- ・モスクへ行く(金曜午後)

食事への配慮

- ・宗教上禁止または嫌悪されている食材
- ・ラマダン(断食期間)日没後は食べられる
- ・弁当
  - 昼食は帰宅して食べる、冷たい食事を食べない文化、
  - 「日本の弁当」のイメージと違うもの
- ・食器を持ち上げて食べない文化

宗教による禁止または嫌悪事項

- ・歌、踊り、楽器、自画像を描く、水泳など
- ・左手を使うことは避ける(ヒンドゥー教)
- ・頭をなでる

遅刻・欠席

- ・欠席するときに連絡をしない
- ・家事や下の子の面倒を見るのが優先されるため学校を休む/遅刻する

教具・教材

- ・教材・教具は購入する必要がある
- ・教育は無償の国もある
- ・制服(ある場合)、体操服、ジャージ、内履き、〇〇袋、〇〇セットなど

行事への参加

- ・児童生徒は参加することになっている(国によっては任意や修学旅行など宿泊を伴う活動がない/教育活動に入らない)
- ・保護者の参加の有無(PTA、運動会、授業参観など)

身だしなみ

- ・服装、化粧、香水、アクセサリ等(宗教的なものもある 例 ビアス(お守り))

部活動(特に体育系)

- ・中・韓では、部活動はほとんどない
- ・米では、スポーツ系の部活動は学校ではなくエリート(アスリート)養成

未就学の可能性がある教科

- ・国 全般、書写
- ・社 地域学習、日本の歴史
- ・理 植物の栽培、実験
- ・算 九九、計算方法の違い
- ・音 リコーダー、鍵盤ハーモニカ
- ・体 跳び箱、マット運動

ジェスチャーの違い

- ・OKサイン(親指と人差し指でOを作る)→国によっては「お金」の意味
- ・おいでおいでの手招き→国によっては「あっち行け」の意味

採点方法の違い

- ・赤ペンを使わない
- ・正答に○→正答に✓